

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は平成28年6月29日開催の第98期定時株主総会で「定款一部変更の件」が承認されたことを受け、平成28年度より決算日を3月31日から12月31日に変更いたしました。従いまして前連結会計年度は経過期間となり、前第1四半期連結累計期間については、当社並びに3月決算の連結子会社は平成28年4月1日から平成28年6月30日の3ヶ月を、12月決算の連結子会社は平成28年1月1日から平成28年6月30日の6ヶ月を連結対象期間とした変則決算となっております。このため、対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間のわが国の経済は、政府による景気対策の継続などにより企業収益や雇用の改善など回復基調に推移しているものの、個人消費については依然厳しい状況が続いています。

そうした状況のなか、当社グループは「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに、お客様のニーズを満たす新製品の発売や、既存製品の育成、今後の成長事業への投資に努めてまいりました。

その結果、売上高は30,749百万円、営業利益は4,958百万円、経常利益は4,851百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,455百万円となりました。

セグメントの業績の概要は次のとおりです。

国内家庭用品製造販売事業

当事業では、毎年春と秋に新製品を発売しており、2016年度に発売した新製品のうち、外用消炎鎮痛剤「アンメルツNEO（ネオ）」や肥満症改善薬「ビスラットゴールドEX（イーエックス）」、背中・デコルテなどのブツブツ治療薬「セナキュア」、皮ふ治療薬「キュアレア」、上質な香りのスタイリッシュな芳香消臭剤「お部屋の消臭元パルファム」などが売上に貢献しました。なお、今春は11品目の新製品を発売いたします。

既存品のヘルスケアでは洗眼薬「アイボン」や女性保健薬「命の母A」、傷あと改善薬「アットノン」、漢方薬「チクナイン」「ダスモック」「ユリナール」、息清涼カプセル「ブレスケア」などが、日用品ではおりもの専用シート「サラサーティ」やインテリアフレグランス「Sawaday（サワデー） 香るStick（スティック）」などが、スキンケアでは薬用ローション「オードムーゲ」やシミ対策のスキンケア「ケシミン」などが好調に推移しました。

その結果、売上高は24,959百万円、セグメント利益（経常利益）は4,520百万円となりました。営業利益は4,396百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は当第1四半期連結累計期間では1,303百万円となっております。

（外部顧客への売上高の内訳）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日）
	金額（百万円）	金額（百万円）
ヘルスケア（旧・薬粧品）	13,794	12,408
日用品	12,696	8,920
スキンケア	1,301	1,349
カイロ	△74	977
合計	27,717	23,655

海外家庭用品製造販売事業

当事業では、米国・中国・東南アジアを中心に、カイロや額用冷却シート「熱さまシート」、外用消炎鎮痛剤「アンメルツ」などを販売しており、広告や販売促進など積極的に投資することで、売上拡大に努めました。

その結果、売上高は4,607百万円、セグメント利益（経常利益）は269百万円となりました。営業利益は309百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は当第1四半期連結累計期間では204百万円となっております。

(外部顧客への売上高の内訳)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年3月31日)
	金額（百万円）	金額（百万円）
米国	1,506	1,471
中国	2,159	1,138
東南アジア	1,880	1,246
その他	738	545
合計	6,284	4,402

通信販売事業

当事業では、栄養補助食品、スキンケア製品等の通信販売を行っており、広告やダイレクトメールを中心とした販売促進による、新規顧客の開拓と既存顧客への購入促進に努めました。

その結果、売上高は2,443百万円、セグメント利益（経常利益）は52百万円となりました。営業利益は53百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおりません。

その他事業

当事業には、医療関連事業、運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作等を含んでおり、各社は独立採算で経営し、資材やサービス提供についてその納入価格の見直しを適宜行いました。

その結果、売上高は1,382百万円、セグメント利益（経常利益）は317百万円となりました。営業利益は184百万円となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は当第1四半期連結累計期間では1,134百万円となっております。

(2) 財政状態に関する説明

総資産は、前連結会計年度末に比べ4,848百万円減少し、196,385百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加（2,179百万円）、受取手形及び売掛金の減少（11,174百万円）、有価証券の増加（2,000百万円）、商品及び製品の増加（1,891百万円）等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ5,233百万円減少し、52,681百万円となりました。主な要因は、電子記録債務の減少（594百万円）、未払金の減少（3,374百万円）、未払法人税等の減少（1,102百万円）等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ384百万円増加し、143,704百万円となり、自己資本比率は73.1%となりました。主な要因は、資本剰余金の減少（775百万円）、利益剰余金の減少（8,011百万円）、自己株式の減少（10,171百万円）、為替換算調整勘定の減少（680百万円）等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期の連結業績予想につきましては、平成29年2月1日付け公表の「平成28年12月期 決算短信」に記載の業績予想から変更はありません。